

会 議 録

| | | |
|----------------------|---|--|
| 会議の名称 | 第13回宍粟市地域創生戦略委員会 | |
| 開催日時 | 令和元年7月25日（木）14時00分～16時15分 | |
| 開催場所 | 宍粟市役所5階 502会議室 | |
| 議長（委員長・会長）氏名 | 林 昌彦 | |
| 委員氏名 | （出席者） 林 昌彦、玉田 恵美、山田 寛、 古根川 淳也、小藤 智代美 | （欠席者） 三渡 圭介、岡本 一也、長田 博、 春名 千代、田口 すみ子 |
| 事務局及び担当部氏名 | （事務局） 宍 粟 市：中村副市長 企画総務部：坂根部長、水口次長 地域創生課：藤原副課長、前田係長、清水係長、朱山主査 | |
| 傍聴人数 | 0名 | |
| 会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開 | （非公開の理由） |
| 決定事項 | （議題及び決定事項） 1 開会 2 あいさつ 3 報告・協議事項 （1）戦略事業の評価について （2）次期戦略について 4 その他 5 閉会 | |
| 会議経過 | 別紙のとおり | |
| 会議資料等 | 別紙のとおり | |
| 議事録の確認（記名押印） | （委員長等） _____ ㊟ | |

(会議の経過)

| 発言者 | 議題・発言内容 |
|--------------|--|
| 事務局 | 1 開会 |
| 委員長及び 副市長 | 2 あいさつ |
| 事務局 | 3 報告・協議事項 (1) 戦略事業の評価について |
| 事務局 | 【別紙資料①】【別紙資料②】【別紙資料③】に基づき、「森林」及び「木育」をテーマとした事業の評価について説明。 |
| 委員 | ・ 木育キャラバンを実施されたということであるが、その費用対効果としてはどのように捉え、今後どのように取り組むのか。 |
| 事務局 | ・ 単純に事業費と来場者数だけでは、木育キャラバンの費用対効果を測りかねる部分がある。今回は木育キャラバンの開催に併せて、ウッドスタート宣言を行い、今後、木育を推進していくことの決意表明を行った。市の決意表明を広く知ってもらおう場としても木育キャラバンは効果があったと考えている。また、今後についても引き続き木育キャラバンの開催を考えているところであるが、その手法についてはノウハウの蓄積と宍粟独自のおもちゃセットを揃えることで、NPO法人に頼ることなく実施する方法も考えていきたい。 |
| 委員 | ・ 整備が進んでいる一宮市民協働センターでも木のおもちゃで遊べる空間づくりをされると聞いているが、西脇市の「Mirai e (みらいえ)」のような施設になるのか。 |
| 事務局 | ・ 「Mirai e (みらいえ)」は大きな施設なので規模は異なるかもしれないが、イメージとしては近いものになると思う。市民協働センターにおいては、できる限り宍粟の材を使って木に触れていただける空間づくりを考えている。 |
| 委員 | ・ 木育キャラバンを何度も誘致するよりは、木のおもちゃを購入し、常設で自由に遊んでもらえるスペースを作る方がいいと思う。そうすることで、市外からも木のおもちゃで遊ぶことを目的に来てもらえるのではないかと。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 木育キャラバンについては、運営のノウハウを学ぶというのが誘致した目的の一つである。また、今回は木育を推進していくことを皆さんに広く知っていただくために、イベント的な要素を取り入れた。本年度についても木育キャラバンの実施を予定しているが、その内容については、より良い方法を検討していきたいと思う。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 委員は、木育キャラバン会場に行かれていたそうだが、参加されていた方の感想はどのようなものがあったか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 参加されている子どもたちは楽しそうに遊ばれており、親からは子どもが木に触れて遊べる場所があることは嬉しいという声があったが、子どもたちは木のおもちゃだから楽しいという認識はしていないように思う。親が子どもたちにどんなおもちゃで遊ばせたいと思うかが重要なように感じる。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 委員が言われるように、NPO法人からも小さな子どもはおもちゃが何でできているかまで理解して遊んではいないと聞いている。ただ、幼少期から木に触れる経験を重ねることで、将来、生活の中に木を取り入れるなどの消費行動に繋がっていく。 <p>木育キャラバンに参加されていた千種町の方に話を伺うと、「地域に子どもを遊ばせる環境がないので、屋内で木のおもちゃで常時遊べる環境があると嬉しい」と言われていた。委員からご意見をいただいたように、イベントではなく常設で木のおもちゃで遊べる空間づくり、親子で活動できる場所づくりは重要だと考えており、一宮市民協働センターの機能としてそういった役割を持たせることを検討していきたい。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを遊ばせるとなると、土日に利用できることが重要だと思う。市民協働センターは土日に利用できる方が、利用者に喜ばれるのではないか。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 木育キャラバンのような、子どもたちが木と触れあえる場所の必要性は広まってきていると思う。そういった中で、木と触れあえる場所を常設するには運営費用という課題に直面すると思う。ここで事例を紹介させてもらう。 <p>神戸ハーバーランド木育施設「ひょうご木づかい王国学校」はもともと国の助成金を使って維持管理されていたが、その助成金が途絶えたことで存続の危機に陥っていた。そこで、この施設が資金集めに利用したのがクラウドファンディングという手法で、実際、240万円という目標額を超える資金調達を実現している。このことは、木と触れあえる施設の存続を希望し、支援する方がいるということで、ニーズになったのだと思う。宍粟市としても、</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>このような場所を持つことは魅力に繋がると思う。</p> <p>ただ、この施設自体は幼い子どもを対象としているので、「木育」という視点で考えると、入り口部分であると思う。そこから森林、林業や地域経済を学んでいくという教育にどのように繋げていくかが重要になってくると思う。</p> <p>教育に繋げていくという部分で「食育」と比較した場合、「木育」を推進していくためには、小中高との連携や人づくりが必要であり、これから様々な取組を展開していかなければならないと思う。木育を推進するにあたって取り組まなければならないことや課題は多くあると思うが、「木育」に着目されたということは良いことだと思う。</p> |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ご意見をいただいたように、木育を教育に繋げていくためには、中高生まで対象を広げていくことが必要であると考えているが、現状として中高生への取組は少ない状況であり、今回、県立森林大学校と連携して中高生を対象とした木育新聞の配布を考えている。また、人づくりの部分については、行政のみの取組ではなく、民間事業者等と連携した取組が必要であると考えている。その点について、他地域で木の加工技術を教え、木製品の販売へ繋げる人材育成に取り組まれている事業者から提案をいただいたりもしており、そのような民間事業者等との連携を意識しながら進めていきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 自分が子どもの頃は木でできた滑り台で遊んだ記憶があるが、最近は同じようなものを購入しようと思っても手に入れにくい状況があると感じる。 <p>県立三木山森林公園の木の滑り台は、子どもたちの人気を集めている。子どもたちが木でできたおもちゃで遊ぶ経験は良いことだと思うので、いつでも木に触れられる環境づくりは大切だと思う。</p> <p>また、高校生への取組が少ない状況とのことだが、進学・就職などにより市外へ転出することの多い年代なので、その年代への取組も充実させる必要があると考える。高校生や大学生まで切れ目ない木育を展開していくことで、より良い取組になっていくと思う。</p> |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 高校生への取組として、市内にある県立山崎高等学校の森林環境科学科と連携した取組も検討していきたいと思う。また、官民共同による木育の拠点づくりの研究を進める中で、常に木と触れあえる環境づくりについても検討していきたい。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 県立山崎高等学校の森林環境科学科で学んでいることを、情報発信や発表してもらおうということではできないか。中高生に学んでもらうだけではなく、 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>学んだことを同世代や地域との交流の中で共有するという仕組みが望ましいのではないかと思う。また、県立森林大学校でも同じようなことが考えられないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで県立山崎高等学校の森林環境科学科では、イベントで木の株で作った椅子の販売やパネル展として自分たちの活動紹介などしてきたが、イベントの数が減ってきていることもあり、以前より機会が減ってきているようにも感じるので、ご意見をいただいたような取組は検討していきたいと思う。また、県立森林大学校については、地域との繋がり・交流を大切にしたい取組をされている。そして、地域も県立森林大学校を歓迎される中で、「いちのみやふるさとまつり」で森林大学校のブース出展や、県立伊和高等学校と連携した活動を続けられており、こうした活動が徐々に地域へも広がりを見せているところである。今後は、県立森林大学校の学生に活動してもらえれば他にないのか検討し、地域との交流機会を増やすことも検討していきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 「木育」は宍粟市をPRしていく方法として良いと思う。そういった中で、気になる点が木のおもちゃづくりの担い手不足という課題である。 <ul style="list-style-type: none"> 市として「木育」の施策の広がりをどこまで考えられているのか。市民向けのふるさと意識の醸成までなのか、それとも木のおもちゃづくりを一つの産業として捉えて取り組んでいきたいと思われているのかによって、関わり方が違ってくるのではないかと感じる。木育キャラバンについて、その場に行けば非常に良いものであることが想像でき、そういった場所が市内に常設できれば、宍粟市に人を呼び込むためのツールとして良いと思う。 一方で、宍粟市が作ったおもちゃを全国に発信していきたいという意味では、先ほど委員長が言われたハーバーランドの施設に、宍粟市産の木のおもちゃが置いてあるという方が効果的である。また、子ども用の屋外遊具を取り扱っている大手業者と連携することで、さらに広がりが生まれるということも考えられる。 産業として捉えて取り組むにあたって、木のおもちゃの作り手がいなかったり、おもちゃの製作に適した材が手に入らないとか、外国産材との価格競争には勝てないという課題があるのであれば、そこには戦略が必要になってくるので、そこにこそ民間のノウハウが必要になってくると思う。 私自身が林業の木材供給の現状など分かっていない部分があるので、勝手な意見になって申し訳ないが、木育の取組から産業の底上げに繋げていくような、視点を変えた取組が必要になってくるのではと思う。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 木育という着眼点はいいけれども、現状としてそこに追いついていない部 |

| | |
|-----|---|
| | <p>分が多くあると思う。先ほどは教育について言ったが、民間事業者等が木育で何ができるのかという部分で、理想としては宍粟材に付加価値を加えて販売していくことが考えられるが、なかなかそこまで行けないという現状であれば、木材加工技術の蓄積や担い手づくりを進めていくことが必要である。そこは長期的に取り組む必要があると思う。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立森林大学校もあるが、県立ものづくり大学校との連携なども考えられるのではないか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの森林・林業に対する市の施策は、素材生産に対する取組が主であった。そういった中で、平成30年度に初めて「木育」という視点を市民の方からの提案もあり、木材利用の新たな切り口として取り入れたので、ご意見をいただいたような部分については十分に議論ができていないところがある。例えば、商工会と経済循環の中に木育といった視点・切り口を取り入れていく議論をすることも考えられるが、現状として十分にできていないところである。今後、さらに展開を図っていく中で議論を深めていきたいと思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ この取組は一足飛びにできるようなものではないと思うので、例えば10年先を見据える中で、作ることや作り手のことだけでなく、使い手にどう働きかけていくかも考えて取り組んでいただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 木のおもちゃづくりを産業にという話が出ていますが、宍粟市で手に入る材の多くは杉や桧なので、材としておもちゃづくりには向いていない。今回の誕生祝い品は、杉と桧をメインで作られているが、木育キャラバンに出ていた木のおもちゃは広葉樹が主に使われている。今後、産業として進めるには宍粟の材では難しいのではないかと感じる。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現段階で「木育」の取組については、様々な可能性があるということだと思う。これから取組をどこまで具体化できるかを検討してもらう中で、先進事例なども参考にしてもらう必要があると思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 木育については様々な意味づけができるものであると思う。その中で、考えておかなければいけないと思うことは、木育は地域創生総合戦略の中の一つの施策であるということ。人口減少をいかに食い止めていくか、社会減をいかに減らしていくかが究極の目的となる。そのために、郷土愛を醸成し、 |

| | |
|-----|---|
| | <p>まちを好きな人を育てなければならないので、教育に木育を展開していくということが重要であると思う。</p> <p>また、実効性のあるものとして地域創生に繋げていくためには、木を使って経済の循環をどうしていくのかということは必ず考えていかなければならないと思う。産業の育成に木育をどのように結びつけていくかを考えていく必要があると思う。</p> <p>(1) 戦略事業の評価について</p> <p>【別紙資料④】【別紙資料⑤】【別紙資料⑥】【別紙資料⑦】に基づき、総合戦略事業全体の評価として4つの柱のうち【住む】【働く】について説明。</p> |
| 事務局 | |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家活用制度による移住世帯数について、内訳として子育て世代がどの程度いるかなど分かるか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度の内訳として、移住世帯の世帯主の年齢で49歳以下が21件、50歳から64歳が6件となっている。また、森林の家づくり応援事業については、平成30年度実績で83件の申請があり、20歳代が14件、30歳代が48件、40歳代が16件、50歳以上が5件となっている。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者の中で、新たに宍粟市で仕事に就かれた方はあるのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事とリンクした情報までは入手できていない。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 既に別のところで働かれています住宅だけ宍粟市で取得されたとか、新たに市内で就職されて移住されたといったところまでデータを取ることはできないか。なぜ移住に繋がったか、移住を可能にした背景・理由が何かを分析する必要がある。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会増減が減っており、転出が抑制されている理由について、総合戦略事業で効果が出てきたものがあるのかといった分析はされているか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 転出者の内訳を確認したところ、一つは外国人の転出者が前年に比べて減っている。また、若い世代の全体人口に占める割合が減っていることも若干ではあるが影響していると考えられるが、転出者の減少割合の方が高い。その他の要因として、転出先地域として姫路・高砂・加古川への25歳から39歳くらいまでの年齢層の転出が前年度に比べて減っている。その理由として、仮定であるが、一つは住宅取得支援制度など定住施策により市内に住まいを |

| | |
|-----|---|
| | <p>取得されていることや、無料職業紹介所によって市内での就職という選択肢が増えてきたことが考えられる。併せて、高齢者についても若干の転出減になっており、福祉施策の充実によって市内での生活を継続できるようになっているといったことが考えられる。そういったことが全体として好影響に繋がり、転出減に繋がっているのではないかと現時点では考察している。</p> <p>今後も状況を確認しながら引き続き分析を進めていきたい。</p> |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通について、採算という面ではどのような状況か。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通については赤字が必ず出てくる状況で、その部分は市で補てんをしているが、多くは国からの交付税措置により財源確保できている。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活をするうえで公共交通は非常に重要なものではあるが、それだけが全てではないので、公共交通への投資が他へ影響しないようにする必要があると思う。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状、公共交通を再編する際の当初計画で想定していた市の費用負担より少ない費用負担で推移している。想定よりも多くの方に利用いただけていることが理由である。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家バンクの成果が出ていることは評価できると思うので、さらに掘り下げた分析が行えると良いと思う。女性のライフステージでいうと結婚・出産・子どもが小学生になるタイミングで大きく三つの転換期があり、このタイミングでどこに住むかが重要だと思う。そのことを踏まえ、ターゲットを絞って施策を展開することが必要だと思うので、そのためにも掘り下げた分析をお願いしたい。また、仕事でいうとIT関連など場所を選ばない職業もあり、宍粟市のような環境で仕事することを希望されることもあると思う。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 掘り下げた分析を行うための情報収集を定住促進コーディネーターが担っていくのではないのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定住促進コーディネーターについては、現状として空き家バンクを使って移住していただくまでのサポートに力を注いでいる状況で、移住後のフォローアップも行っているが、分析を行うための情報収集までは十分でない。今後、担当部局とも連携しながら情報収集を図りたい。 |
| 事務局 | <p>【別紙資料④】【別紙資料⑤】【別紙資料⑥】【別紙資料⑦】に基づき、総合戦</p> |

| | |
|-----|---|
| | 略事業全体の評価として4つの柱のうち【産み育てる】【まちの魅力】について説明。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 年間観光入込客数が大きく減少している理由は何か。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 全体的な観光客数も減少していることが考えられるが、大きな理由として一つは観光入込客数をカウントしていた観光施設の閉鎖の影響がある。また、一部施設で観光入込客数のカウント方法を変更したことが影響していると考えられる。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 宍粟市の観光は天候に大きく左右されることも考えられる。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 観光ステーションを設置するという話が以前にあったと思うが、その状況はどうか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 現状は新たな場所の選定を進めている状況である。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 【産み育てる】という部分で、自然増減の状況はどうか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 現状として自然増減は微減の状況が続いている。木育をはじめ、子育て環境の充実を図る取組も新たに始めているが、特効薬的に効果が出ているというものではない。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代包括支援センターの利用者からはどのような相談、ニーズがあるのか把握されているか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者数については、平成30年度で1,681組が利用されている状況である。相談内容として、妊娠から出産まででお母さんが不安になりやすいという相談が多い中で、保健師や臨床心理士の力を借りて相談に乗り、その方にあったプランを立てていくという対応をしており、利用者からは安心したという意見をいただいている。このことで産前産後の切れ目ない対応を進めている。ニーズの部分でいうと、出産されてからの予防接種にスケジュールなどが分かりにくいという意見がある中で、子育てアプリを導入することで分かりやすくなったという意見をいただいております、登録者数も伸びている状況である。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て環境でのニーズや取組は非常に重要なことであるので、今後はそういった部分をKPIで把握できるようにしていかなければいけない。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>(2) 次期戦略について</p> <p>【別紙資料⑧】に基づき、次期戦略について説明。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見等なし |
| 事務局 | <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の戦略委員会メンバーでの会議は最後になるので、次期戦略に向けてのご意見等あれば伺いたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画などは総花的なものになることが多いと思うが、目玉となる施策を打ち出し、強弱をつけた計画としてもらう方が市民も分かりやすく良いと思う。 ・ 委員会の進め方の部分になるかと思うが、始まった頃は内容が幅広く、何について話せばいいのか難しかったが、最近は論点を絞った議論ができていると思うので、引き続き論点を絞った議論を続けてほしい。 ・ 計画の策定となると最初は目標を掲げて取組を進められると思うが、開始してからもしっかり検証しながら進めていくことが重要になってくると思う。5年間の計画となると長期間なので、想定外のことが起こる可能性もある。そういった時に、計画の変更も含めてどのように対応していくかが大切だと感じる。また、今日の会議の中でもあったが、事業効果の分析を行って、その理由を把握することが大切で、その情報については庁内や市民の方とも共有していってほしいと思う。 ・ 計画を策定し取り組んで行く中では、当初の想定通りにいかないこともあるので、その場合は大胆な計画変更も可能性として考えておく必要があると思う。事業の効果が上がらない時に、計画にあるから必ずしなければならないではなく、事業をやめることも必要な判断になってくるのではないかと。また、地域創生の取組は宍粟市全体の問題になるので、宍粟市全体として取り組む意識付けを周知方法やPR方法などを工夫する中で取り組んでもらいたい。そして、市役所内部においても部署間の横の連携をとって、市全体で取り組んでもらいたい。 ・ 現状、宍粟市ではロードサイドの店が撤退している状況にある。事業所の減少はまちづくりの根幹に関わるため、次期戦略においては事業所や雇用の |

| | |
|------------|---|
| <p>委員長</p> | <p>確保を最優先に考え、よく議論してもらいたい。宍粟市では森林の活用が重要であり、新たに創設される森林環境譲与税を活用しながら雇用の促進に繋げてもらいたい。また、将来的に山陽道と中国自動車道の接続が予定されており、交通の流れの変化を踏まえて企業誘致を進めてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の戦略を策定する際は、新しい取組・アイデアを取り入れ、新しい人に参画いただいて、それをどのように波及させていくかを考えていた。しかし、実際にはそう簡単にはいかないもので試行錯誤を繰り返しているのが現状かと思う。ただ、詳細に見てみると、少しずつ効果が出ているものもある。この委員会としては、そういった効果が出ている情報を発信していきたいという思いもあったが、そういった部分についてなかなか上手くいかなかったかと思う。今後、委員が変わっても委員会は継続していくので、引き続き建設的な議論をしていく場にしていきたいと思う。参画いただいた委員の皆さまには、毎回、長時間の議論をしていただいたことについてお礼を申し上げます。 |
| <p>副市長</p> | <p>5 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ |